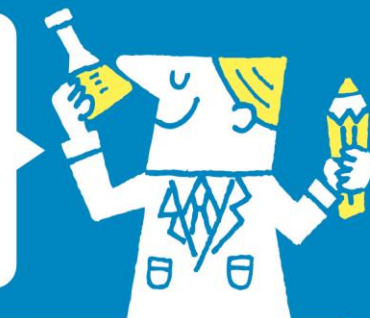


ニッセンケン分室「思いつきラボ」No. 27

“ジャージ”って体操服のことじゃないの？…



ようやく過ごしやすくなってきたなと思っていたら 10月27日午後近畿地方で木枯らし1号がそして27日夜に東京都心でも木枯らしが吹いたと発表がありました。東京都心の木枯らしは昨年より15日も早いとのことで冬の足音が近づいています。紅葉を楽しむような快適な時期が年々減っているような気がします。さて今回のテーマですが10月に体育の日があったからということでもないのですがタイトルのようになちよとした疑問を感じた方からの質問です。

ジャージの由来

まず筆者の小中学生時代を思い起こしても体操着 体操服という呼び方で横文字はほとんど使った記憶がありません。高校時代(昭和40年代前半)にトレパンという白いパンツを穿いていた気がしますがニットではなく織物の長ズボンでした。病院で見掛ける看護師さんのパンツに近いイメージかもしれません。ただ1964年(昭和39年)の東京オリンピック以降スポーツブームとなりウォームアップスーツをジャージと呼び始めたところがあったような気がします。頼りない原稿で申し訳ないですがアバウトな記憶です。体操服から入ってしまったので自信のない文章になりましたがジャージは本来は平編み生地の名称です。

ニット生地の平編みの英語表記を調べてもらえば分かりますがプレーンステッチ(plain stitch)とジャージーステッチ(jersey stitch)と出てきます。ジャージは和製英語でそのもとになっているのがジャージーということです。ニットの平編みとは天竺(てんじく)のことですがイギリス海峡のジャージー島で作られていた厚手の編地のことを指していてその組織が平編みだったということからジャージーと呼ばれるようになったと考えられています。

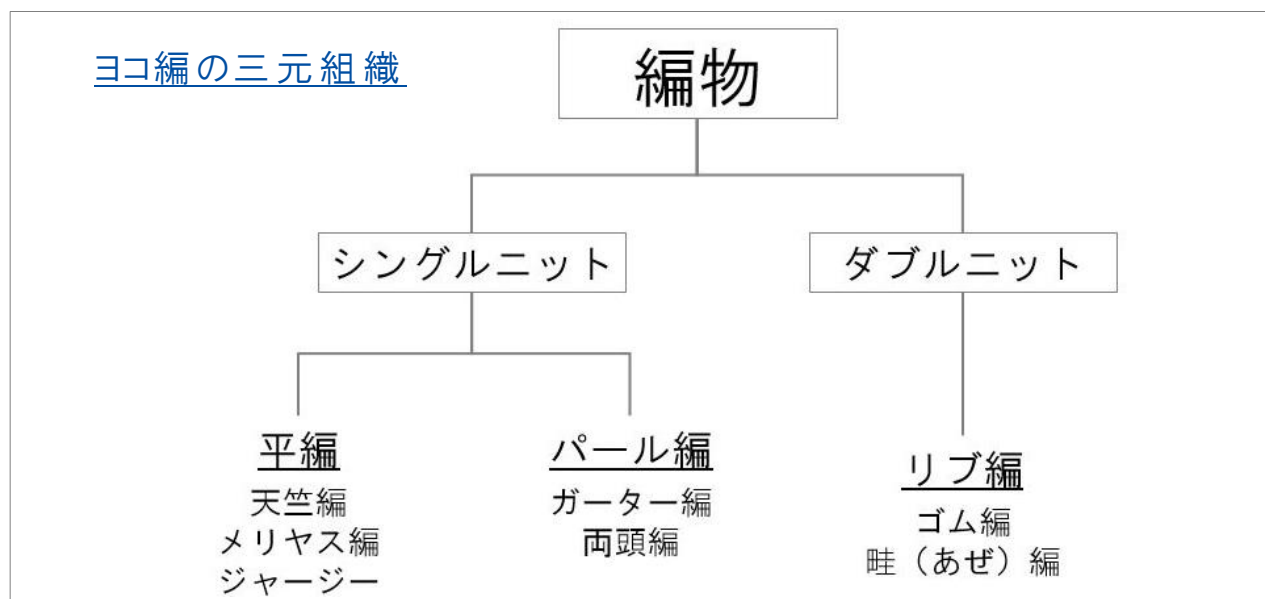
とはいえニット生地担当の筆者でもジャージはニット衣料の意味合いでとらえています。というのもスポーツウェアでラグビーのユニフォームをラグビージャージと呼ぶのでその影響が強いのかもしれません。今のラグビージャツはフィットタイプになってしまったので生地は天竺ではありませんが数年前までは先染めボーダー天竺の生地を使っていたのです。ラグビースポーツも歴史のある競技ですし発祥がイギリスであることからジャージー島の厚手の平編み生地を使っても不思議なことではありません。



ということでジャージはスポーツ衣料でジャージーは平編み生地という解釈でいいと思います。質問の“ジャージ”は体操服という意味では合っていますが体操服だけに限定することはできないと思います。ファッション用語として使われる場合はジャージ風なカジュアルウェアもジャージと呼ぶこともあるので現在の解釈としてはスポーツライクなニット衣料という感じだと思います。また時代が変われば意味合いも変化するかもしれませんが感覚的なとらえかたになっていて厳密な定義付けはできないと思います。

“ジャージー” と “ジャージ”

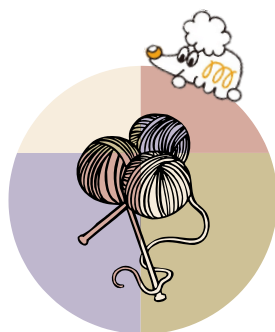
ジャージと呼んでいるトレーニングウェアはまず天竺生地で作られたものは少ないです。一般的なトレーニングウェアはダブルニットの生地を使用しますのでシングルニット組織の天竺生地を使うことはほとんどありません。シングルニットとダブルニットの違いは針の配列が1列か2列の差によります。説明が伝わりにくいかもしれませんがダブルニットは両面から生地を編んでいるとイメージしてください。ジャージーの本来の意味である平編み生地がジャージになると全く意味の違うものになっています。ファッション用語の恐さを感じます。



一方でニット生地業界の方でも平編み生地ではない使われ方をしていますジャージを編物 メリヤス ニットと同義語として扱われている場合も多くタテ編ジャージとかヨコ編ジャージとかシングルジャージなどの文字を見掛けます。天竺ジャージとなるとさすがに抵抗を感じますが ジャージ=編生地と考えれば天竺編生地となるので意味は通じます。ファッション用語に限らず日本語英語には本来の意味とかけ離れた意味で使われているものがあるということです。

まとめ・・・

ややこしいので今一度まとめておきますと“ジャージ”とは本来はイギリス ジャージー島で作られていた厚手の天竺編のニット生地のことですが 現在ではスポーツ衣料やカジュアル衣料のニット製品のことを指すようになっています。またニット生地のことジャージと呼ぶことがあります。というようなまとめとなります。繊維業界の用語にはこんな曖昧な表現をする言葉が多くありますので小さな疑問を持たれたら是非この思いつきラボに連絡ください。一緒に考えたいと思います。



原稿担当

竹中 直(チョコ)